

八戸工業大学 同窓会報

第3号
3月・9月発行
八戸工業大学
同窓会本部事務局
0178-25-8027

かたい絆を再確認 第二回同窓会総会を開催

第二回八戸工業大学同窓会総会は十月十九日（土）に同窓生や来賓・教職員など約百六十名が参加して八戸グランドホテルにて開催されました。

総会は今年も二部構成で行われ、第一部の記念講演では、八戸市の大河原隆助役と本学の増田陽一郎学長補佐が講演しました。

大河原氏は「八戸市政から期待する八戸工業大学」の演題で、具体的な例を挙げて今後の八戸市の将来構想を述べ、その実現に際して本学の援助・助力を大いに期待していることを話されました。

増田学長補佐も「テクノ・サイエンスパーク構想」のテーマで、創立三十周年を迎えて設立された「八戸工業大学教育研究後援会」の概要や創立三十周年記念事業の一環である地域メディアセンターの建設等について紹介しました。

その後、全員での記念撮影は喜んで第二部の懇親会に入り、白川直人同窓会会長、柳谷弟吉学校法人八戸工業大学会長、増田学長補佐のあいさつに続き、山田政信八戸工業大学蒼穹会会長の乾杯で懇親に移りました。

懇親会では、会場のいたるところで友人同志や恩師を囲んで旧交を温めたり、先輩と後輩が



同窓会の締めは、
参加者全員で校歌を熱唱

八戸工業大学創立三十周年を契機に、地域と共に歩む大学としてさらなる発展を支援するための八戸工業大学教育研究後援会が発足しました。その第一回会合が、平成十四年十月十九日（水）八戸グランドホテルで開催され、会の規約、役員、活動方針が審議・了承されました。

八戸工業大学 教育研究後援会発足と 地域情報メディア センター建設寄付活動

平成十五年度の同窓会総会も十月の学園祭と同日の開催を予定しております。昨年十二月一日の東北新幹線八戸延伸により、遠方からのアクセスも便利になりましたので、同窓生の皆様にも第三回の同窓会総会（集う会）に多数御参加いただきたいと思います。

翌日には、生憎の雨天にもかかわらず、母校の学園祭に訪れた同窓生も多く、各研究室やサークルの展示や実演に注目したり、家族と一緒に模擬店や出し物をのぞきこむ姿も見受けられました。

この日のために遠方よりはるばる駆けつけたおられ、昨年に引き続き参加された同窓生も多数おられ、実社会に巣立っていった後も恩師と同窓生、同窓生同士、ひいては本学と各同窓生がかたい絆で結ばれていることを再確認できた。

同時に、それぞれの会話から、同窓生諸氏が社会の第一線で活躍・健闘している様子もうかがえるなど、わずかな時間でしたが、今回も実り多い同窓会となりました。

この中核施設としては、異分野融合科学研究所と地域情報メディアセンターがあります。本学では、すでに平成十四年四月から異分野融合科学研究所を発足させており、本後援会では後者の地域情報メディアセンターの支援を行うものとしたものです。

同窓会長、父兄後援会長など本学関係者が就任し、会長には、東奥日報社社長の佐々木高雄さんが選ばれました。この後援会は三十周年行事を担当するものではなく、今後の八戸工業大学の発展を永遠に支援するための組織として発足したもので、同窓生諸氏には、この理事の一人に同窓会長が加わっていることをご理解いただきたいと思います。



メディアセンターのイメージ図

ある情報メディアを整備し、学生と共に地域の人々に閲覧を通して活用する機能、二つ目はインターネット上で情報を受け取れ、在宅にて情報を受け取る機能、そして三つ目は、同窓生を含め技術者が集い総合に交流ができる機能が検討されています。

この施設は学生と共に、同窓生にも、地域の人々にも有効な施設となるよう検討中です。ご意見、アイデアがありましたら同窓会事務局までぜひお知らせ下さい。およそ五年後をめどに検討していますが、この建設のための寄付活動を進めています。すでに、在職教職員から寄付を毎月受け取っています。追って、同窓生諸氏にも寄付のお願いをいたしますので、なにとぞご理解・ご協力のほどお願いいたします。

第二回 東北支部総会 開催案内

同窓会活動の活性化と同窓生間での横のつながりを強く持つてもらうことを目的として、昨年度から支部の設立運営を進めております。第一弾として、昨年五月に東北支部を設立し、第一回目の支部総会を仙台市内で行いました。当日は、仙台市近隣はもちろんのこと東京からも出張に合わせて多数の方が参加してください、大変盛況な会となりました。

東北支部では、総会に先立ちエネルギーと環境に関する講演会を開催します。講演内容は今話題となっているバイオマスと太陽光発電に関するものです。皆様、ふるってご参加ください。すようお願い申し上げます。

日時：平成十五年五月十七日（土）
場所：ハーネル仙台、仙台市青葉区本町2-12-17、電話 022-2222-1121
会費：五千元



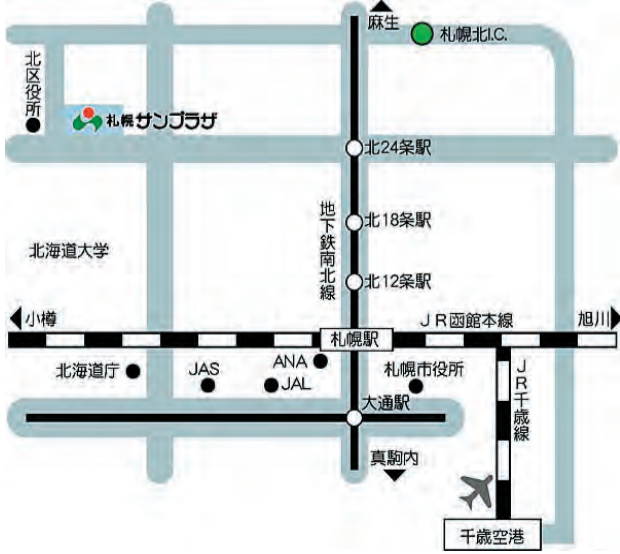
第一回 北海道支部総会 開催案内

今年、東北支部に引き続き北海道支部が設立されます。第一回目の北海道地区同窓生の集う会は、札幌市で行われます。札幌市近隣の方はもちろんのこと、少しでも多くの同窓生が集まってくださることを教職員の方々も心待ちにしております。

当日は、八戸工業大学の現在の様子などをC科の長谷川明教授がお話くださることにしております。お時間に都合のつく方は、お友達もおさそいの上、是非にもご参加ください。すようお願い申し上げます。

日時：平成十五年六月十四日（土）十八時
場所：札幌サンブラザ、札幌市北区北24条西5丁目、電話 011-7581-3111
会費：五千元

同窓会参加予定教職員
増田陽一郎学長補佐、M科・加賀拓也教授・栗原伸夫教授、E科・藤田成隆教授、C科・長谷川明教授・阿波稔講師、A科・渡辺正朋教授、P科・村中健教授、G・水沼和夫教授、学生部・池田政勝次長



第一部 講演会…次世代エネルギーへの期待
時間：十六時～十七時三十分
一、「バイオマスエネルギー」岡村隆成 教授
二、「太陽光発電システム」藤田成隆 教授
第二部 同窓生の集う会、時間：十八時
同窓会参加予定教職員
高橋燦吉学長、M科・佐藤松雄教授・太田勝講師、E科・藤田成隆教授・横地弓夫助教授・信山克義講師、C科・須田熙教授・長谷川明教授、A科・伊藤敬一教授、P科・岡村隆成教授・高橋晋助手、I科・木村昭徳助教授、G・勝村靖夫教授、学生課・青井信達係長

東北支部、および北海道支部で開催される同窓生の集う会に参加ご希望の方は、本誌についている郵便はがきのおもて面にある参加確認欄にチェックを入れ、うら面に氏名、学科、卒業年等、必要事項をご記入の上で切手を貼らずにご返送ください。

建築工学科・拓北会通信

卒業生による

設計講演会開かれる

昨年十二月九日(月)に、八戸工業大学建築工学科を会場として、「地方における設計活動と設計事務所」と題した講演会が開催されました。本学科の設計教育の一環として計画されたもので、講師は、本学科卒業生で建築家として広く活躍されているお二人にお願いしました。

演題「北海道における設計活動と建築家」

小野寺一彦氏
八戸工大一回生

演題「東京でできること VS 地方でできること」

近藤容子氏
八戸工大八回生、
元建築工学科非常勤講師

OBによる就職講演会

例年三年生を対象に開催されているOBによる就職講演会が、今年も十一月二十六日(火)に建築工学科で行われました。本年の講師には、小山建設工業(昭和五十五年卒)を迎え、「建設業界の現況と求人動向」という題で講演頂きました。建設業界の置かれている厳しい環境や、受注や入札の話など、就職活動を控えた三年生にとつ

と子の建築教室などの社会的活動、県及び市の公的委員を務めるなど、地方で仕事することのメリットを強調されました。また、イナックス主催の第十三回TJH大賞中小住宅部門で優秀賞を受賞した「子どもの居場所を持つ住宅」を紹介し、講演を終了されました。

両先輩共に卒業後も大学との交流を持ち続けることの大切を強調したことが学生に深く印象づけられた講演会でした。

では、実社会を垣間見る大変よい機会になりました。また、建設業界での求人への厳しさにも触れ、これからの就職活動への意気込みを新たにしていきました。

その他、厳しい就職活動のすえ無事内定を勝ち取った四年生二人による「私の就職活動体験」も報告され、三十社近くの採用試験を受けた話や面接を含めて5回も試験が行われた話などに驚きの様子で聞き入っていました。

その他
昨年月には八戸工業大学創立三十周年記念の公開講座も行われました。「風水で考える住まいと街づくり」の講演と、新幹線時代の「私の住みたい街」のコンクールが行われ、盛況裏に終了しました。これらを纏めた冊子(A4版三十頁)も近々出版されますので、興味のある方はお申し込み下さい。

環境建設工学科・シビル会便り

環境建設工学科における

JABEEの取り組み

○JABEEとは 日本技術者教育認定機構 (Japan Accreditation Board for Engineering Education) の略称で、平成十一年十一月に発足し、技術系学協会と連携して技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。大学などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満足し、その評価・改善活動を含めたシステムが十分に機能しているかどうかを公平に評価し、認定・公開する制度を定めています。

認定の主な目的は、①認定基準を満たしている教育プログラムを公表することで、プログラムの修了生が、将来技術者として活動するために必要な教育を受けていることを社会に知らせる。②技術者教育プログラムの質の継続的改善・向上を図り、優れた教育方法の導入を促進して技術者教育をさらに発展させる。ことなどで、ISOの教育版とも言えるものです。土木系大学では、平成十二年度から試行審査が開始され、平成十三年度までで八戸工業大学(環境建設工学科)を含む九つの高等教育機関が試行審査を受けました。また、平成十四年度からは正式な審査が始まっており、当学科でも本審査を受審しました。

○学科の取り組み 平成十二年度から学科内に、自己点検・評価・改善活動の核となる「教育プログラム改善委員会」と「自己点検チーム」を設置し、さらに平成十四年度からは、学外からプログラムの評価を行う「教育懇談会」を発足させました。懇談会には当学科の卒業生の方も入っており、貴重な御意見をいただいています。これらの組織を通じて、学科の教育プログラム全体、教員のシラバス(授業内容)や達成度の評価方法、さらには教育研究施設(環境)の充実など、教育研究に係わるあらゆる項目について点検・改善を行ってきました。

付ける膨大な関連資料に基づいて、教育プログラム関係者(自己点検チーム)面談、教員面談、学生・卒業生面談、教育関連施設・設備の視察などが実施されます。これにより、学科の学習・教育目標の設定と公開、学習・教育の量、教育手段、教育環境、学習・教育目標達成度の評価および教育改善について、学科の教育プログラム全体がJABEE基準を満たしているか詳細な審査が行われます。

平成十四年度の実地審査(本審査)終了時点での一次審査報告書では、①授業の自己点検、学生による評価等、優れた教育点検システムを構築していること、②教員と学生との間の関係が密で、教員の熱意と工夫が学生に伝わり、学生の満足度が極めて高いこと、③地域に密着したテーマでかなりの数の四年生が学会発表を実施してきたこと、などが高く評価されています。本審査結果の正式な通知は、今年度末に届くことになっており、「認定」の通知を大いに期待している所です。

本学科では、このような教育プログラムの点検・評価・改善活動を、策定した年間計画および年次計画に従い恒常的に実施していくこととなります。より高い教育プログラムの確立には、学科の教職員や学生のみならず、卒業生の皆さんもシステムのその活動の一翼を担って行くことが求められています。今後とも、何かと皆さんのご協力とご理解をお願いすることになります。その節は宜しくお願ひします。

電気電子工学科ニュース

水交會

八戸工業大学電気工学科同窓会

を設立

既に「八戸工業大学同窓会報創刊号」にてご周知のように、大学創立三十周年を機に連合同窓会という形態から各学科同窓会を集約した「八戸工業大学同窓会」となりました。それらにより同窓会活動の多くは本部事務局により運営されることとなりましたが、電気工学科独自の事業等実施のため「八戸工業大学電気工学科同窓会」を改廃し「水交會」を設立いたしました。「水交會」は「八戸工業大学電気工学科同窓会」のこれまでの諸権利・義務を継承しながらもう一度初心に戻り今後のOB同志の親睦の活動がどのようにあるべきか会員の皆さんと考えていきたいと思ひます。最後に会員諸子、関係各位のご健勝をお祈り申し上げます。

水交會会長 菅野義明

水交會事務局

八戸工業大学 電気電子工学科事務室

tel 0178-25-8020

e-mail dosokai-e@hi-tech.ac.jp

水交會役員一覧

会長	菅野 義明	昭和51年卒
副会長(会計担当)	福士 信雄	昭和52年卒
副会長	田代 和博	昭和54年卒
幹事(監査担当)	横田 勝	昭和51年卒
幹事(書記担当)	山崎 憲吾	昭和51年卒
幹事(書記担当)	梅津 政明	昭和52年卒
幹事(書記担当)	長谷 一史	昭和64年卒
幹事	木村 忠良	昭和52年卒
幹事	大坂 明	昭和53年卒
幹事	溝口 悦夫	昭和54年卒
幹事	馬場 光之	昭和55年卒
幹事	栗原 郁夫	昭和59年卒



JABEE 本審査の様子
～在学生も審査員の面接を受ける～

エネルギー工学科OB会通信

江草龍男先生 本学で学術講演会開催

平成十四年十二月十七日、八戸工業大学AVホールを会場に、永年エネルギー工学科教授として教育研究に携われてきました、江草龍男先生（平成二年退職）の学術講演会が行われました。江草先生は以前とお変わりなく、シンボルの長いおひげと張りのあるお声で講演と数多くの質問に熱弁を振るわれました。講演内容は次の通りです。（講演要旨より）

「我が国に原子力平和利用が解禁されて以来、既に六十余年の歴史的發展を経ている。その間、原子核研究や核開発に関して全くの白紙状態から出発して、今や原子力発電に関しては世界のトップレベルにまで達している。

目下、我が国も、核融合の開発に関しては米、EU、ロシアと互して進もうとしてい

第四回エネルギー工学科OB会 八戸市で八月二日開催決定

昨年、東北新幹線が八戸市まで開通し、その同じ年に多くの優秀な卒業生を社会に送り出したエネルギー工学科は二十周年向かえま

多方面で活躍中の同窓生皆さんの親睦を深めるため、関係教職員も多数参加し、第四回エネルギー工学科OB会（同窓会）を盛大に開催します。

懐かしい友人に再会し、情報交換の場となればと思えます。是非、皆さんの参加されることを願います。また、お近くの友人やメール等連絡をやり取りしている友人がおりましたらお誘い合わせの上参加して頂ければと思います。特に、各期卒業の幹事の方々は同期の皆さんへの連絡、お誘いをよろしく願います。

当日は、現在の八戸工業大学の様子や懐かしい先生方、同窓生の皆さんの近況、すばらしい景品の当たるゲーム等、盛り沢山の内容を予定しています。

開催日時 平成十五年八月二日（土）
午後六時～

開催場所 八戸グランドホテル

住所 青森県八戸市番町十四番地

電話 〇一七八（四六）一二三四

会費 一万円（当日受付納入）

申込は、ハガキ、またはEメールで、「第四回エネルギー工学科OB会（同窓会）参加申込」、郵便番号、住所、氏名、電話番号、卒業年、卒業研究担当教員名、近況を忘れずご記入の上、お送り下さい。なお、申込は、平成十五年七月十五日必着です。

申込先は、〒〇三一一八五〇一
八戸市大字妙字大開八十八番地一号
エネルギー工学科OB会まで、Eメールは本誌内の同窓会事務局連絡先のエネルギー工学科Eメールアドレスまでお願いします。



現在も世界中を駆け回る江草先生（87歳）

システム情報工学科ネットワーク

ツールなど情報環境を構築する方法を学んでおります。この様に本学科では、情報ネットワークの構築技術に関して特に力を入れております。

* システム情報工学科の研究ニュース *

「遠隔講義システム」
本学科の松坂先生が、家庭で好きな時間に大学の講義が受講できるようにという狙いのもとに、インターネットを使った遠隔講義システム開発しました。

本システムの開発は、家庭にも普及しつつあるADSL回線を利用して実現したものです。ADSL回線を利用した主な理由は、従来の電話回線より高速データ通信ができるからです。

このシステム利用する受講者側は、ADSL回線（1.5メガ以上）とブラウザソフトがあれば受信できます。また、配信側は、プレゼンテーションに使うソフト（Power Point等）を利用して短時間に講義内容を作成できます。そして、動画像と音声も同時に配信できることから教科書を見ながら先生の話聞くという講義の臨場感も味わえ、わかりやすいのが特徴です。試験配信の結果非常に好評です。

試験配信は松坂教授の講義「世界の風力発電」5本が用意されています。1本の長さは15分程度です。受講を希望される方は電子メールで（tom@hi-tech.ac.jp）まで、ご連絡ください。

東北新幹線八戸開業

東北新幹線は昨年十二月一日盛岡―八戸間（九十六・六キロメートル）が開業し、北奥羽地域は新たな歴史の第一歩を踏み出しました。これで、八戸市は首都圏と乗り入れなしで最短で二時間五十六分、仙台からは一時間十八分で結ばれることになりました。

この新幹線八戸開業に伴い八戸駅舎も新しくなり、これまでの駅舎とは見違えるほど立派に生まれ変わりました。新しい駅舎は、新幹線、在来線とも橋上駅で東西自由通路（うみねこロード）で結ばれています。また、駅舎東口を挟み込む形で駅ビル「プラザ1」（八階建て）、「プラザ2」（三階建て）が建設され、更に、駅東口二階からエントリ、駅前駐車場までの連絡通路も出来ました。

駅ビルプラザ1は、一階に「図書館情報センター」、二階に「はちのへ総合観光プラザ」、三階には飲食店が入居、四階から八階は「ホテルメッツ八戸」となっています。また、プラザ2の一階には飲食・物販店、二階には「八戸駅市民サービスセンター」、三階には物販店が入居し営業を開始しています。

開業日の一日は、新装なった八戸駅新幹線十一番ホームで上り一番列車「はやて2号」の出発に合わせて大勢の市民を巻き込んだ出発式が盛大に行われました。

出発式では、大塚陸毅JR東日本社長、木村守男青森県知事らの挨拶に続き、新幹線の名称「はやて」と同名の小学校三年八幡姫君から秋山卓二郎元八戸市長、三上一夫運輸社から花東が贈られ、式典代表者のテープカットと、公募

要求されております。その様な社会の要求に答えるためにシステム情報工学科が誕生致しました。さらに本学科は、北東北地区における情報の発信源の核となり、情報技術の発展に寄与することを目指して来ました。システム情報工学科は平成11年4月に開設され平成15年3月をもって第1回生を輩出することになります。その間システム情報工学科では、教育目標として「理系の技術」と「文系の知恵」を兼ね備えた、高度な情報技術者の育成を目指してきました。ここでいう理系の技術とは、先進的で実践的な情報処理技術を意味します。また、文系の知恵とは、人間や社会に深い理解を持ち、人間や社会に関する深い理解をもち、人間や社会の抱える問題に対する適切な解答を見出す力を意味します。

優れた技術者の育成のために、ハードウェア、ソフトウェア、情報ネットワークを総合的に理解し、ビジネス・システムを構築できる高度な人材の育成を目指しております。特にネットワーク教育のために教員がシスコシステムズの講習会を受け、授業以外の時間にも指導にあたっております。また、カリキュラムの中では、情報工学応用実験Iでハードウェアの組み立てから情報ネットワークの構築、OS、ソフトのインス

システム情報工学科の第1回同窓生輩出

システム情報工学科では、平成15年3月をもって第1回同窓生56名を輩出することになりました。同窓生を輩出するにあたり同窓会の皆さんに、学科の教育内容や最近の研究ホットニュースをお知らせ致したと思います。

* システム情報工学科の教育内容 *

社会ではインターネットの普及を契機に、情報技術（IT）が目覚ましい発展を遂げており、電子商取引やオンライン・ショッピングも本格的な普及を迎えようとしております。しかし、社会的に情報処理社会を支えるべき情報技術者の不足が指摘され、その育成が

キリトリ

郵便はがき

料金受取人払
八戸局承認

031-8790

442

八戸市大字妙字大開八八―
八戸工業大学
同窓会 行

181

差出有効期限
平成17年2月
28日まで
※有効期限内は切手を貼らずに投函して下さい。
有効期間後は50円切手を貼って下さい。

キリトリ

- 第2回 東北支部総会 5月17日（土）
1. 講演会：参加 不参加
2. 同窓生の集う会：参加 不参加
- 第1回 北海道支部総会 6月14日（土）
- 同窓生の集う会：参加 不参加
- 平成15年4月20日締め切り

機械情報技術学科 情報欄

愛澤 秀信さん（平成9年3月 機械工学科卒業）が 筑波大学より博士号を取得

愛澤さんは、平成5年3月福島県小高工業高等学校を卒業し、同年4月八戸工業大学機械工学科に入学、平成9年3月本学卒業後筑波大学で研究生となり、平成11年4月博士課程後期課程応用生物化学系に入学、平成14年3月に博士号を取得しました。

学位論文題目は『水晶振動子と抗体を用いた免疫センサーの開発』である。また取得した学位は、博士課程後期課程修了による博士（農学）であります。愛澤さんの本学における卒業研修のテーマは、『高密度刻線機による連続刻線』でした。1mmの間に500本～1000本の微細な溝をダイヤモンドバイトで刻むという、ナノテクノロジーの研究を行い、顕著な成果を収めました。また、愛澤さんは武道にも優れており、剣道三段、合気道初段の段位を持っており、大学に於いては剣道部主将を務めるなど文武両道にすぐれた学生でありました。

今回の学位論文は本学の卒業研修が基礎となっており、機械工学と生物化学の境界領域で見事に結実したものである。本学にとっては、愛澤さんの後に続く学生に大きな励みとなる快挙であります。

機械情報技術学科三年 武部篤志君 機械設計技術者三級試験に合格

機械情報技術学科の武部君（八戸工業高校出身）が、機械設計技術者三級に合格したことが1月20日の日刊工業新聞に掲載されました。東北地区では合格者は3名です。

機械情報技術学科では、平成10年度から学生の資質向上を目指して『資格取得支援』を重点目標の1つとして実施してきております。これまで機械設計技術者試験三級に18名の合格者を出しております。

このような成果は、機械情報技術学科の教育方針である『学生を主体にした教育』が結実したものであります。今後は、本学科の教育内容をさらに充実させることにより、学生と一体になって本学科のレベル向上をはかることができるものと考えています。

同窓会事務局の連絡先（各種連絡先としてご利用ください）

事務局名	TEL	E-mail
本部事務局 (学生部学生課)	0178-25-8027	dosokai@hi-tech.ac.jp
機械・産業機械工学科 (機械情報技術学科事務室)	0178-25-8010	dosokai-m@hi-tech.ac.jp
電気工学科 (電気電子工学科事務室)	0178-25-8020	dosokai-e@hi-tech.ac.jp
土木工学科 (シビル会事務局)	0178-25-8058	dosokai-c@hi-tech.ac.jp
建築工学科 (建築工学科事務室)	0178-25-8040	dosokai-a@hi-tech.ac.jp
エネルギー工学科 (エネルギー工学科事務室)	0178-25-8050	dosokai-p@hi-tech.ac.jp

10月18日(土)・19日(日)
学園祭

10月18日(土)
第三回 同窓会総会
場所：八戸グランドホテル
時間：午後6時から

10月18日(土)
定例理事会
場所：八戸市内予定

6月28日(土)
*支部の詳細は本誌一ページ目に記載

6月14日(土)
同窓会代議員会
場所：八戸市内予定

5月17日(土)
第一回 北海道支部 同窓生の集う会
場所：札幌サンプラザ(札幌市内)
時間：午後6時から

4月5日(土)：入学式
5月2日(金)：開学記念日
5月17日(土)
第二回 東北支部 同窓生の集う会
場所：ハーンル仙台(仙台市内)
講演会：午後4時から
同窓生の集う会：午後6時から

同窓会半期(4～10月) 行事予定



新しくなった八戸駅—右奥は駅ビル

この日の八戸駅は、営業を開始した新幹線タ—ミナルを一目見ようと大勢の市民や乗客、歓迎レモニーの関係者で終日混雑しました。「はやて」の運行本数は、八戸—東京間が十五往復、八戸—仙台間が一往復、定員はこれまで旧特急はつかりの二・四倍の八百十四人となる

体育会戦績

アイスホッケー部

インカレ三年連続 四度目の出場

去る十一月二十日から二十三日まで、山形市を会場に第七十五回日本学生氷上競技選手権大会東北地区予選が行われ、本学アイスホッケー部が三年連続で四度目の全国大会出場権を手にしました。同部は、今年度一ランク上の実業団リーグへの加盟が認められ、早い時期から氷上練習を開始して大会に臨みましたが、善戦は



本学の選手(青いユニホーム)が
ゴールを決める瞬間

ポクシング部
第十二回東北地区大学選手権大会で大活躍
大学選手権大会は宮城県仙台育英高校で開催され、本学から七名参加し、三名が決勝に進出した。実力が伯仲しているフライ級では、主将の機

のインカレの出場権を獲得しました。実業団相手に苦杯し自信を失いかけていた選手達でしたが、自信が甦り再び勝利を目指し練習に励んでいます。

会員状況(異動)届

氏名 (旧姓) _____

E-mail _____

学 科 _____

卒 業 昭和・平成 _____ 年 _____ 月

学籍番号 _____

現住所 〒 _____

Tel _____ Fax _____

勤務先 _____

役職名 _____

勤務先 〒 _____

住所 Tel _____ Fax _____

通信欄 _____

このはがきは、現住所等に変更があったときは必ずお送りください。名簿に記載を希望しないときは□内に×印をしてください。また、近況、お知り合いの会員の異動についても「通信欄」でお知らせください。